

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2019年1月)

主な出来事

【内政】

- 9日、閣議において、第8回国民議会議員選挙を4月28日に実施する事が決定した。ベナン憲法及び選挙法によれば、国民議会議員は4年ごとに改選される。

【外政】

- 29日、アベノンシ外務・協力大臣は、ベナンを訪問している Jens Frølich Holte ノルウェー王国外務副大臣と2国間関係に関わる記者会見を開き、ノルウェー企業が港湾、石油分野で投資をするとし、4月には経済・産業分野のミッションがベナンを訪問すると発表した。トナト生活環境・持続的発展大臣、ウス・エネルギー大臣、ドスウイ農業・畜産・漁業大臣が同席した。

【経済】

- 11日、コトヌ自治港において、小西大使はアイス産業・商業大臣に対し、食糧援助米5,379トンを提供した。約15億フラン CFA を上回る今次援助により、ベナンでの食糧安全保障に貢献すると共に、同提供米の販売により積み立てられた資金が、社会・経済開発案件に充てられる。
- 14日、ビオ・チャネ計画・開発大臣は、国会開発計画2018—2025(PND)を発表し2025年のビジョンとして、持続的に10%の経済成長率を目標とする旨発表した。
- 25日、駐ベナン日本国大使館は、開発協力プレスツアーを実施し、新聞記者とテレビ記者は、日本の支援を受けたゴロ・ジベ第2中学校、アラダ病院、たけし日本語学校や青年海外協力隊隊員の活動状況について視察した。

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'économiste 紙、La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 8日、タロン大統領は、外交団を対象に新年挨拶を行った。国際社会の平和、環境保全への取組み、文化遺産の返却や違法医薬品対策等について言及した。(9日、Le Matinal 紙)
- ・ 9日、閣議において、第8回国民議会議員選挙を4月28日に実施する事が決定した。ベナン憲法及び選挙法によれば、国民議会議員は4年ごとに改選される。(11日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 16日、恒久電子化選挙人名簿(LEPI)が、独立選挙委員会(CENA)に提出された。ベナ

ン全土で、503万7,785人が投票権を有している。(17日, La Nation 紙)

- ・ 16日, RB 党(当館注:ソグロ元大統領及び夫人率いる政党)本部において、4月の国民議会議員選挙に臨むにあたり、野党共闘で候補者を統一すべく協議が行われた。ヤイ前大統領も参加した。(17日, L'Événement Précis 紙)

【外政】

- ・ 10日, 国際サッカー連盟(FIFA)代表は、タロン大統領を表敬訪問した。アベノンシ外務・協力大臣及びホメキ観光・文化・スポーツ大臣も出席した。(11日, La Nation 紙)
- ・ 29日, アベノンシ外務・協力大臣は、ベナンを訪問している Jens Frølich Holte ノルウェー王国外務副大臣と2国間関係に関わる記者会見を開き、ノルウェー企業が港湾、石油分野で投資をするとし、4月には経済・産業分野のミッションがベナンを訪問すると発表した。トナト生活環境・持続的発展大臣、ウス・エネルギー大臣、ドスウイ農業・畜産・漁業大臣が同席した。(30日, L'Événement Précis 紙)

【治安】

- ・ 2日, ベナン北部ジュグ市の市場において、火災が発生し、多くの古着販売店が焼失した。(3日, L'économiste 紙)
- ・ 4日, ベナン北部バニコアラ市 Toura 地区の墓地にて、3日に死亡したとされる女性を土葬しようとしたところ、生き返るといふ事件が起きた。この女性は直ぐにバニコアラの病院に搬送された。(7日, La Nation 紙)
- ・ 9日, カラレ(Kalalé)市カカテニン(Kakaténin)の市場において、綿花を掲載したトラックで火災が発生し、綿花約5トンが焼失した。(11日, La Nation 紙)
- ・ 8日, バニコアラのトラック運転手が綿花の種4トン以上を横領したとして、11日カンディ第一審裁判所検事に出頭させられた。(14日, La Nation 紙)
- ・ 13日, パラク市ガノン(Ganon)地区のゴミ捨て場において、16歳前後と思われる女性の死体が発見された。共和国警察が捜査中である。(15日, La Nation 紙)
- ・ 17日, アボメカラビ市ゴドメ地区 Togbin-Kpevi において、バイクで自宅へ向かっていた男性が3名の男に襲われ、バイクを強奪された。また、男性が抵抗して、助けを求めた際、犯人等は発砲し周辺住民4名が負傷した。(21日, Le Matinal 紙)
- ・ 18日, パラク市において、スピード超過の二輪車がトラックを避けようとしたところ、ハンドル操作を誤り事故が起きた。バイクは破損し、搭乗していた2名が死亡した。(21日, Le Matinal 紙)
- ・ 21日, サベ市カブア(Kaboua)地区において、武装した強盗団4名が店を襲撃し数十万フランCFAを強奪した。目撃者によると、トラックの運転手が発砲により死亡、別の1名が顎を打たれ、重傷の傷を負った。現在共和国警察が犯人を捜査中である。(24日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 30日, アボメカラビ市において、8年前より建設中の2階建て建物が崩壊し、2名が負傷した。(2月1日, La Nation 紙)

【経済】

- ・ 2018年12月の Forbes 社は、Doing Business2019を発表した。アフリカ諸国経済共同体(UEMOA)加盟国でセネガル、コートジボワールに続く第3位、アフリカ全体で19位、世界(調査対象国161か国)で118位であるとした。(4日、L' économiste 紙)
- ・ インフラ・運輸省は、2019年1月より、大型貨物商用車(トラック)の過積載許容率を UEMOA により推奨されている20%から15%への引き下げを適用すると発表した。(7日、L' économiste 紙)
- ・ 2019年1月のアフリカの調査機関である「アフロバロメーター」の調査によると、ベナン国民の77%(51%はラジオを所有し、26%は未所有だが聴取)がラジオ聴取者であり、テレビ視聴者は全体の48%(全体の28%はテレビ所有者)、携帯電話の所有率は78%(25%はインターネットにアクセス可能な携帯電話)であるとした。(7日、L' économiste 紙)
- ・ 2017年、コトヌ自治港で取り扱われた貨物の内、53%はニジェール等内陸国を対象とした貨物であった。(9日、L' économiste 紙)
- ・ 2019年初頭、仏ロックフォールに本社のある Fonroche Eclairage は、太陽光パネルを装備した街灯15,000基をベナンに展開する。(9日、L' économiste 紙)
- ・ 11日、コトヌ自治港において、小西大使はアイス産業・商業大臣に対し、食糧援助米5,379トンを提供した。約15億フラン CFA を上回る今次援助により、ベナンでの食糧安全保障に貢献すると共に、同提供米の販売により積み立てられた資金が、社会・経済開発案件に充てられる。(14日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 14日、ピオ・チャネ計画・開発大臣は、国会開発計画2018—2025(PND)を発表し2025年のビジョンとして、持続的に10%の経済成長率を目標とする旨発表した。(15日、L' économiste 紙)
- ・ 14日、トヨタ前交差点にフライオーバーを新設するプロジェクトの一環で、日本人調査団は、インフラ・運輸省アヤジ・インフラ局長を訪問し当該プロジェクト調査と計画について意見交換を行った。(16日、L' économiste 紙)
- ・ 17日、ガンベ投資・輸出促進局(APIEX)局長は、2018年に、22,000の会社が創立されたと発表した。政府の取組みにより登記手続きが簡素化された。2016年から会社数は、毎年12~15%の伸び幅で増えているとした。(21日、La Nation 紙)
- ・ 18日、グラズエ市において、日本の支援による給水施設の引渡式が行われた。53.5億フラン CFA を投じて設置された同施設により一日あたり供給量は240m³から590m³に増大する。小西大使、笹館 JICA 所長、アダンビ水利・鉱山大臣らが出席した。(21日、La Nation 紙)
- ・ 21日、アフリカ経済開発アラブ銀行(ABEDA)の調査団一行は、当銀行の融資を受けた案件調査のためコトヌを訪問した。ワダニ経済・財務大臣やピオ・チャネ計画・開発大臣と会談する予定となっている。(22日、L' économiste 紙)

- ・ 28日、ワダニ経済・財務大臣は、アラブ経済開発クウェート基金と、ブコンベ(Boukoubmé)市、コベ(Cove)市及びザナナド(Zagnanado)市の給水案件に関する借款の協定を結んだ。(30日、L'Événement Précis 紙)
- ・ トランスペアレンシー・インターナショナルは2018年「腐敗認識指数(CPI)」を発表し、ベナンは昨年より1ポイントアップした40ポイント(100点中)であった。180か国中85番目である。(30日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 27日～30日、サウジアラビア商工会議所一行がベナンを訪問し、コトヌ自治港の訪問やベナン商工会議所、ビオ・チャネ計画・開発大臣、アイス産業・商業大臣と同国による投資について意見交換がなされた。タロン大統領は2016年11月に同国を訪問し、ベナンへの投資を呼びかけている。(31日、Le Matinal 紙)
- ・ 30日、トッフオ市のクッシ中学校において、日本の支援による同校校舎建築に関わる署名式が執り行われた。小西大使が出席した。(2月1日、Le Matinal 紙)

【文化・その他】

- ・ 12月28日、駐ベナン中国大使は、ベナンのメディアとの交流会を開催した。(3日、L'Économiste 紙)
- ・ 2018年の学士号取得国家試験の合格率は、73.91%であった。5,773人が受験していた。(14日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 17日、元 JICA 研修生で構成される同窓会(2A2BJ)は、2018年の活動の一環で、アボメララビ市にある公立イエロニセ(Yelognisse)小学校で手洗いの啓発セミナーを実施した。(18日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 17-18日、駐ベナン中国大使館はロコサ市へ無料診断医療団を派遣し、739人を診療した。(25日、La Nation 紙)
- ・ 22日、たけし日本語学校は新年コースの募集を開始した。同校はゾマホン前駐日大使が代表を務めるIFEにより運営されている。(21日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 25日-27日にパリで開催された「空手パリオープン2019」に参加した、2017年アフリカチャンピオンであるガニエロ選手(女子、-55kg 級)及び2018年アフリカ大会銅メダルのトボス選手(女子、-50kg 級)は、1回戦敗退に終わった。(30日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 26日、中国の新年の祝いに際し、コトヌ市で中国雑伎団の公演が行われた。(30日、Le Matinal 紙)
- ・ 26日、ベナンの合気道家約20名は、トーゴから派遣された専門家の前で「級」「段」取得試験に参加した。(31日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 25日、駐ベナン日本国大使館は、開発協力プレスツアーを実施し、新聞記者とテレビ記者は、日本の支援を受けたゴロ・ジベ第2中学校、アラダ病院、たけし日本語学校や青年海外協力隊隊員の活動状況について視察した。(28日、L'Événement Précis 紙)